

美術選択者の皆さん美術教科担当の土屋です。コロナ蔓延対策の影響により、美術室での制作が現状は困難となったため、暫くの間プリントによる代替授業を用意しました。十分とはいえませんが、できる範囲で高校美術の面白さが伝えられればと考えています。

美術Iの大きなくくりは『明暗表現と色彩表現』です。学習の要点と目標は『美術の基礎的な知識の理解』で、実習棟西側1階、美術室前の壁面に昨年度の全授業作品を展示しているので参考にして下さい。

授業では基本的に実技実習が主体になります。そのための教材基本セット(絵の具・筆など)授業出使う最低限必要なものを揃えます。最初に5,000円を集金しますが、すべて使い切ってしまうわけではないので、年度末に清算し、教材購入残金は明細を添えてお返しします。コロナウイルスの影響がどの程度になるのかは今のところ予測できないため、新学期が始まっていますが、購入は様子を見ながら発注する予定です。

授業再開時には、すでにB3パネル(1年間貸与)に画用紙を水張りしてあるので問題ありません。初回は、教室での説明だったので伝わったかな?と心配しています。連絡事項はおおむね文頭に記したので、実力テストのプリントとデッサン課題(画用紙)についてもう一度確認しておきましょう。

【プリント解説】家庭学習1

*裏面は、今後の状況に合わせたカリキュラムを組むことと、個々の指導に役立てるためのアンケートなので忘れずに記入してください。

問1 (想定デッサン)

シャープペンの人も多いかと思いますが、できれば鉛筆を使って描いて下さい。

なければ今回はシャープペンシルでも構いません。

評価ポイント：①白い球体と認識できるか?(形のゆがみや黒い球になっていないか注意しよう)

②5段階以上のグラデーション(濃淡)の幅が表現できているか?(目標は11段階です)

③光源(光の方向)を設定できているか?

④指でこすっていないか?(こするとグラデーションの幅に影響します)

⑤総合的な評価(明暗の筆圧コントロールと作業にかかる時間が左右します)

問2 (視覚の恒常性)

問1で描いた球体のでっぺんに「黒いゴマ」を乗せた状況をイメージする問題

視覚の恒常性 (詳しくは、実際の授業で解説しますが、デッサンの学習のキモとなるものです)

★視覚の恒常性とは、デッサンをするときに邪魔になる脳の働きの事です。視覚から入ったモノの情報を、水平・垂直ということを前提にしています。ですから傾きなどにはとても敏感です。このことは目の届く周辺を平面的にとらえていることになります。例えば、壁面に貼られたポスターが斜めに張ってあると、とっても気になって直したくなるでしょう。垂直に対して斜めになっているものも同様に変わるかな?と感じると思います。この平面的な見方と、次の立体空間認識の距離について理解していれば、この問2は簡単に正解することができるでしょう。

ところで、視覚のもう一つの空間認識についての解説もしておきます。

普段私たちが生活する中で、周辺およそ1メートル以内の範囲であれば、そのモノとの距離を正確

に（空間）認識できています。およそ何センチ浮いているとか約30センチのところにあるなど、とても正確です。これは両眼で見ているからで、手の届く範囲に限られます。それ以上離れると自分との距離は曖昧になってきます。例えば1.5メートルほどの位置に置いてあるリンゴは、座ったままで手に取ることはできないので、手の届くところまで移動して取ることでしょう。1メートル離れた屑籠に紙屑を投げ入れるのにもある程度近寄らなければ難しいと思います。まして窓の外に見える景色の家や樹木、山や雲までの距離などは正確に認識できるはずもありません。つまり両眼で見えて認識できる距離は約1メートル以内ということです。これは左右両目の幅によるもので、例えば、近くにあるモノは左右の目を交互にパチパチ瞑ったり開けたりすると左右に像が動くと思います。この2つの像を脳が一つの立体的な像として認識するわけです。つまり裏側が左右少しずつ見えているということです。

デッサンをしている場面で見かける、描き手がモチーフに向かって片目を瞑って手を伸ばし、細い棒や鉛筆で大まかなサイズバランスや傾きをとっていることがよくあります。これは片目を瞑ることで立体像と測る棒を写真のような平面に見える（感じられる）ようにするためです。

★視覚の恒常性は重要なポイントだったので、長々と解説してしまいましたが、少しでも伝わればと思います。

問3（デザインの発想）

新しいものを生み出すにはイメージすることが大切です。この問題は陰影表現以外の方法で、円を球体に見せるということです。実際にボールを手を持っていることをイメージしてそのボールをどの様にすれば立体に見えるか？を考えましょう。線の重なりが邪魔になった場合はホワイトで消しても構いません。

問4～問9（絵の具の混色）

絵具に慣れましょう！この問題は2色の絵の具を混ぜる時、パレットに、どの順に絵の具を出して目的の色を作るか？という混ぜる順番や色彩の知識を問います。空欄が無いように考えられるものを描き入れてください。（教科書の148ページを参照してください）

問10（用具の知識）

鉛筆の硬さ柔らかさの問題です。鉛筆の表示HはハードBはブラックですからHBは中間のハードブラックです。9Hから9Bまで作られています。一般的に画鉛筆と呼ばれるB以上の黒くて柔らかい鉛筆、製図などケント紙で繊細な線を引くためにはH以上が向いています。その昔、事務の帳簿は鉛筆でつけていました。簿記用のHBを使っていましたが、事務員さんから、HBはこすれて手や紙を汚すという苦情が出ました。そこでFが誕生しました。これで答えは描けると思いますが、ネットにも紹介されているので、調べてみてください。

これで、実力テストの解説は終わりです。

*画用紙の手のデッサンは思い切り時間をかけるつもりで描き込んでください。グラデーションの幅11段階を目指しましょう。関節は第3関節の位置がポイントでしたね？ 頑張ってくださいね！